



**「火災発見」**  
金子範子さんに感謝状  
11月24日(水)、役場町長室で浅妻町長から金子範子さん(大野・高校1年)に感謝状が渡されました。9月22日、帰宅途中だった金子さんは民家の火災を発見し勇敢にも初期消火を行いボヤにとどめられました。

十一月二十一日(日)、中央公民館で黒埼町将棋大会が開かれ、小学生から大人まで三十四人が参加しました。

成績は次のとおり。

**A級優勝** 大野恵司(諏訪町)  
二位 戸枝洋一(木場)  
三位 島倉 進(蓮方団地)

**B級優勝** 堀川俊彦(大野郵便局)  
二位 桜井吉司(大野新町)  
三位 田巻政衛(鳥原大明)



次の一手は...  
黒埼町将棋大会

**C級優勝** 風間 繁(柳作)  
二位 小林洋治(柳作)  
三位 清水正治(山田上)

小学五年生以上優勝 長谷川慎一(興野) 二位 小柳亮 三位 山際健史(木場)

小学四年生以下優勝 萩野 晶(鳥原大明) 二位 笹川弘康(諏訪町) 三位 山崎広志(鳥原本村)



**黒埼町の昔**  
なせそうだったかという、学校側から全校生徒に来る運動会は全員がパンツで出場するよと言われた。尋常科の女子はも  
文・絵 宮田栄門  
その十二

大正十二年ごろ。当時の大野校は明治四十三年に建てられたばかりのま新しいりっぱな校舎であったが、残念なことにグラウンドがなかった。だから運動会になるとコの字型に作られた校舎前の空地の砂利を取り除いて行っていた。

さて高等科の女子生徒は一年生が十二、三名、二年生が四、五名だった。全員合せても二十名に満たなかったため体育の時間には一、二年生一緒だった。大野校の秋の運動会が数日後に控えたある日のことである。その日高等科女子全員は放課後教室に残されていた。



**▲大正期の黒埼小学校**  
だから運動会や体育の時間は着物にはかまばきのままであった。それにひびの上まで出して走るとはあまりにはづかしいことだった。まだ婦人も着物しか着ていなかったから、パンツなどだれもはかす女子生徒も腰巻を巻いて先生に言うこと。そこで先生に「お前たちが学

# 街かど

## わたしとスポーツ

14



### 好きなスポーツを見つけよう

ツエツベリンバレー部

渡辺 昌哉 (二十一歳 緒立)

わたしの好きなスポーツ。それはバレーボールです。週に二回総合体育館で活動しています。バレーボールを始めたのは高校に入学してからです。それまではバレーボールをまったく知らなかったのが最初はとても不安でした。

しかしやるからにはだれにも負けたくないので努力の毎日でした。友人は前からバレーをやっていたので、そのプレイを見て自分も早く上手になりたいと常に考えていました。

バレーの中でもアタッカーになりたかったのですが、練習が足りず、背が低かったためにもなりました。ところが月日が立つにつれ身長が伸び、ジャンプ力もついてきたのです。自分でも信じられませんでした。

人間というものは努力次第でいくらでも成長するものだと思えました。バレーボールに限らず、すべてのスポーツにいいことです。今日わたしはまだ努力しています。

スポーツをするうえで大切なことは好きになることです。下手でもいいんです。最初から上手な人はどこにもいません。下手だからといってバカにする人はいません。

わたしが今ここで言いたいことは体を動かすということです。

バレーに限らず好きなスポーツを、やりたいスポーツを楽しむことです。

黒埼町には立派な体育館があるのですから、皆さんがもっと積極的に活用すべきです。なんのための体育館でしょうか。

わたしは体力の限界までバレーを続けて行くつもりです。皆さんもスポーツをやりましょう。体育館が待っています。

演説みたいになりましたが、わたしの考えているスポーツの信念を書いてみました。

**善意の窓**  
十一月二十五日、大野新町の森キヨさんが香典返しに五十万円を社会福祉のために寄付されました。

日をうけて山にまばらの冬紅葉  
溪流のひびきはしれり暮の秋  
横木 義男

**短歌**

紅葉の川面にうつる山の景晴着に仕立てわが娘に着せし  
宮田 ミイ

背くらべをするかの如く咲き揃う都忘れの紫の花  
平松清次郎

喜寿近く初めて乗りし飛行機はその便利さをつくづく感ず  
柏 直樹地

白樺の見ゆる谷間の岩風呂で湯気に煙れる紅葉を賞す  
泉井 ヨ子

大根を抜きたるままの畑の土に今朝は霜降り犬の跡あり  
酒井 庄平

信号のきわどきどころ走りすぐ女学生のむれ若々しかり  
阿部 浄子

石段を一千余り上りつめ奥の院には山菊匂う  
小出美喜子

一夏を盛りし葎の鈴虫の残りの一つたえだえに鳴く  
金内 セツ

炉開きの茶席の一切あらたまり初心にかえり道をきわめん  
石川恵美子

**俳句**

林の障子にゆれて時雨来る  
石川恵美子

東の間薄日に紅葉輝けり  
石川恵美子

カーテンに木々の影置き秋深し  
指さして浦島草と言ひ給ふ  
佐藤 キン